

授業科目	＊地域連携協働支援論					実務家教員担当科目	○				
単位	1	履修	必修	開講年次	2	開講時期	後期				
担当教員	吉原 悦子、井手 裕子										
授業概要	地域で生活するあらゆるライフステージ、健康レベルにある人々の健康課題に着目し、ケアに必要な知識、方法を学ぶ。また、事例をもとに地域特性を踏まえたうえで多職種連携・協働によるチームアプローチの視点から包括的にケアする方法を考える。 以上のことについて、実務家教員として臨床経験を持ち、また、暮らしの保健室などにおけるボランティア活動などの経験を活かし、学生自身が地域の課題を発見し解決するために様々な社会資源を活用し、専門職非専門職とともに解決に向けた支援について考え、取り組む力の育成を目指す。										
授業形態	対面授業				授業方法	講義・グループワーク					
学生が達成すべき行動目標											
標準的レベル	1. 地域で生活する人々の健康課題について、ICF をもとに健康特性、価値観、地域環境を踏まえてアセスメントすることができる。 2. 地域で生活する人々の強みや主体性を引きだし、多様な場に応じた看護実践について説明することができる。 3. 地域におけるリハビリテーションの意義を理解し、リハビリテーションを必要とする人の特徴や支援について説明できる。 4. 地域で生活する人々の支援のために必要な保健・医療・福祉・教育等の多職種の役割や連携協働について、その必要性を説明できる。 5. 事例を通し必要な社会資源を考え、地域包括ケアシステムについて考察することができる。										
理想的レベル	地域で生活する人々の健康課題をアセスメントする際に、健康特性、価値観、地域環境、ケアニーズなど個性性を十分に踏まえて考えることができる。 さらに、地域で生活する人々の支援のために必要な保健・医療・福祉・教育等の領域の多職種連携についてその役割を看護との協働について考察することができ、将来を見据えた地域包括ケアシステムについて具体的に考えることができる。										
評価方法・評価割合											
評価方法			評価割合（数値）			備考					
試験			50%								
小テスト			0								
レポート			10%								
発表（口頭、プレゼンテーション）			0								
レポート外の提出物			40%			講義の中でのワーク・グループワークの成果物					
その他			0								
カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング											
DP1	○	DP2	○	DP3	○	DP4	○	DP5	-	ナンバリング	NU21303J
学習課題（予習・復習）										1 回の目安時間（時間）	
講義開始前には地域生活支援論で学んだことを復習しておく。 復習：講義内容について振り返り、不明な点について調べておく。 予習：次回の講義内容についてテキストや配布資料について目を通しておく。										1	

授業計画	
第 1 回	<p>テーマ：地域包括ケアシステムの概略と地域ケア会議</p> <p>地域生活支援論で学んだ地域包括ケアシステムと地域包括ケアに位置付けられている地域ケア会議の機能と役割について概説する。</p> <p>担当：吉原悦子</p>
第 2 回	<p>テーマ：地域包括ケアにおける地域アセスメントと ICF の活用について</p> <p>地域アセスメント、ICF の活用について概説する。</p> <p>担当：吉原悦子</p>
第 3 回	<p>テーマ：地域包括ケアシステムにおける関係法規と社会資源の概要について</p> <p>地域包括ケアシステムにおける関係法規と社会資源について概説する。</p> <p>担当：井手裕子</p>
第 4 回	<p>テーマ：地域包括ケアシステムにおける社会資源の機能と役割について</p> <p>地域包括ケアシステムにおける社会資源の機能と役割について理解を深める。</p> <p>担当：吉原悦子</p>
第 5 回	<p>テーマ：リハビリテーション看護概論</p> <p>リハビリテーションの理念、定義、それに関連する制度について概説する。</p> <p>担当：吉原悦子</p>
第 6 回	<p>テーマ：リハビリテーション看護方法論</p> <p>介護予防、障害の改善、生活の再構築、社会参加を支援するための継続的なリハビリテーションについて考える。</p> <p>担当：吉原悦子</p>
第 7 回	<p>テーマ：住環境を見渡す</p> <p>健康回復・維持のための住環境を考え、ユニバーサルデザインについてを解説する。</p> <p>担当：外部講師</p>
第 8 回	<p>テーマ：地域で生活する認知症を有する人の特徴と課題について（グループワーク）</p> <p>疾患の特性を理解し、地域で生活する認知症を有する人の特徴と課題を理解する。</p> <p>担当：吉原悦子</p>
第 9 回	<p>テーマ：地域で生活する認知症を有する人を地域で支えるための社会資源について（グループワーク）</p> <p>認知症を有する人が地域での生活を維持するために必要な社会資源を確認し、連携・協働について考える。</p> <p>担当：吉原悦子</p>
第 10 回	<p>テーマ：地域で生活する難病を有する人の特徴と課題（グループワーク）</p> <p>疾患の特性を理解し、地域で生活する難病を有する人の特徴と課題を理解する。</p> <p>担当：吉原悦子</p>
第 11 回	<p>テーマ：地域で生活する難病を有する人を地域で支えるための社会資源について（グループワーク）</p> <p>難病を有する人が地域での生活を維持するために必要な社会資源を確認し、連携・協働について考える。</p> <p>担当：吉原悦子</p>

第 12 回	<p>テーマ：地域で生活する医療ケアを必要とする小児の特徴と課題（グループワーク）</p> <p>医療ケアを必要とする小児の特徴と課題を理解する。</p> <p>担当：吉原悦子</p>
第 13 回	<p>テーマ：医療ケアを必要とする小児を地域で支えるための社会資源について（グループワーク）</p> <p>医療ケアを必要とする小児が地域での生活を維持するために必要な社会資源を確認し、連携・協働について考える。</p> <p>担当：吉原悦子</p>
第 14 回	<p>テーマ：地域包括ケアとエンドオブライフケア</p> <p>これまでの講義を通して地域包括ケアとエンドオブライフケアについて考える。</p> <p>担当：吉原悦子</p>
第 15 回	<p>テーマ：事例発表</p> <p>認知症を有する人・医療ケアを必要とする小児・難病を抱える人を支える社会資源や課題について共有する。</p> <p>担当：吉原悦子</p>
テキスト	<p>王麗華：共生社会をめざす地域包括ケア論 メジカルフレンド社</p> <p>酒井郁子：リハビリテーション看護第 3 版 南江堂</p>
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	<ul style="list-style-type: none"> ・高橋紘士：地域包括ケアシステム オーム社 ・上田敏：ICF(国際生活機能分類)の理解と活用 萌文社 ・秋山正子：つながる・ささえる・つくりだす在宅現場の地域包括ケア 医学書院 ・関永信子：地域包括ケアシステムの基礎的理解と実践 翔雲社 ・後藤真澄：「生きる」「暮らす」を支える地域包括ケア みらい ・隅田好美：よくわかる地域包括ケア ミネルヴァ書房 ・福満美穂子：重症児ガール ぶどう社 ・永井康徳：ねこマンガ おうちに帰ろう 主婦の友 ・二本柳 覚：図解でわかる障害児・難病児サービス 中央法規 ・二本柳 覚：図解でわかる障害福祉サービス 中央法規
課題に対するフィードバックの方法	<p>提出物のフィードバックは講義の中で行います。</p>
学生へのメッセージ・コメント	<p>各看護学における対象の理解と、地域生活支援論で学んだ基礎知識が必要です。</p> <p>生活者としての視点を身につけるために、自分が住んでいる地域に興味関心をもって授業に臨んでください。また、新聞や報道などで疾患を持つ人のことだけではなく、子育て世代から高齢者まで些細な困りごとにも関心を寄せてほしいと思っています。</p> <p>レポートについては講義の中で説明します。</p> <p>出席は、出席カード等で確認します。</p>

